

「げやき俳句の会」会報(第二百九回)

令和三年二月三日

第二百九回句会記録

★日時 令和三年二月三日

★場所 紙上句会

★参加者十九名 (総数五十七句)

★真樹先生投句 (○内の数字は得票数)

鴨浮寝濠の石垣急勾配

昭和の戦さ令和の苦難寒の果て

貝殻を砕く白波寒明ける

真樹先生選句 (◎は特選)

◎◎刻々と滋味増す大根今日も干す

◎◎奥の院の階明し水仙花

◎◎懐に新旧手帳春立つ日

◎◎房総も友も息災新海苔来

◎◎自粛の冬玩具の鸚哥と会話して

◎◎熱燭や追憶悔恨溶かしゆく

◎◎寒雀朝の陽だまり一列に

◎◎売り家の庭を彩る水仙花

◎◎轟き落つあと深閑と屋根の雪

◎◎ものの芽のあふる空気密々と

◎◎昭和史を探り語りし楳明り

◎◎寒晴や見上げて大き孔子像

◎◎若き日の恋想い出す露味噲に

◎◎時雨去る雲の割れ目の茜色

④ 雨戸叩く風の音声寒に入る

青嵐

③ コツと割る重みやさしき寒卵

紀泉

③ 春めくや神経回路細きまま

冬水

② 仏の座摘めば飛び出すわらべ歌

夢城

② 路地裏の犬は吠え出す鬼は外

而今

② 露のとう土手の若芽を摘み歩く

誠

② 早梅の香りもありやと顔を寄せ

秋雲

② 聖橋鳩丸くなり日向ぼこ

樹音

② 北風吹くや犬も煽らる試練かな

一華

② 虎落笛叫び声なる万物の

一華

② 陽を受けて川底の鯉春を待つ

盈光

① 餅を焼く喉に詰まらぬように焼く

夢城

① 春を待つ例会集会オンライン

秋雲

① 寒雀けなげに分け合う残り飯

秋雲

① 旧友の消息に泣く蜆汁

久美子

① 繋がれどふれあへぬ君石鹼玉

久美子

① 成田屋のかけ声冴える三番叟

而今

① 寒月や猫の瞳は見開いて

冬水

① 道すがら留守の老梅心ひく

而今

① 逃ぐること出来ぬ宿命寒夕焼

隼人

① 雪掘りや阿吽の呼吸犬吠える

香魚

① 故郷の方を恵方と決めてをり

東洋

① 寒暮の街仮面の邪気と擦れ違ふ

清明

【次回開催】

令和三年三月三日

メール句会

★会員互選句

◎◎年輪を軋しませ大樹寒に入る

東洋

◎◎見世棚のこけし鳴子の春を呼ぶ

久美子